

第2回仙台市長杯仙台市ボッチャ大会 地区大会

競技のルール・試合の進め方【更新版】

- (1) 全国障害者スポーツ大会のボッチャルールを準用するほか、レクリエーションルールにて実施します。
- (2) コートの大きさは通常の半分の6m×3mのハーフコート（市長杯決勝大会の一般の部は12.5m×6mのフルコート）を用い、スローイングボックスは2つに分けて使用。
- (3) 1チーム3名のチーム戦とし、試合ごとに各チームは選手3名を選出し対戦します。
- (4) 試合は2エンド（先攻後攻を交互に1回ずつ）を行い、2エンドの総得点で勝敗を決定。同点の場合は引き分けとします。ただし、地区大会の決勝トーナメント（又は決勝リーグ戦）は、同点の場合はタイブレイク（決戦投球）で勝敗を決め、順位を決定します。
- (5) 先攻後攻はコイントスで決定（先攻が赤ボール、後攻が青ボール）。ジャックボールの投球順序は、第1エンドは先攻（赤ボール）チームの選手、第2エンドは後攻（青ボール）チームの選手が行います。
- (6) 投球は、自陣の中であればどこから投げてもOKです。投球順序も自由です。ただし、審判の指示があってから投球してください。（投球は一人2球。一人が3球などの投球はできません。）
- (7) 各リーグの順位は、勝敗数、得失点差、総得点により決定します。それでも順位が決まらない場合はタイブレイク（決戦投球）により決定します。
- (8) 棄権チームがでた場合は、対戦相手が3-0で勝利したものとします。
- (9) 【小学生以下の部】違反行為があった場合でも注意のみとしゲームを継続します。「ラインを踏みそう」など、ファールとなりそうな場合、投球前に声かけを行いますが、なるべくファールとならないようご注意ください。
- (10) 【一般の部】ファール（違反行為）があった場合でも注意のみとしていましたが、ファールが連続してしまうと公平な試合が難しくなるため、ファールを取ることにします。主なファールは次のとおりで、これらの違反があった場合は、リトラクション（ボール除去）となりますのでご注意ください。
 - ・ラインを踏んで投球した場合
 - ・同時に投球した場合
 - ・審判の指示がある前（自分の色のパドルが示される前）に投球した場合。
 - ・ランプを使用する選手のランプオペレーターが、試合中のコートを見た場合等なお、投球ボールが、有効ボールに当たり盤面が変わってしまった場合は、①主審副審で協議し可能な限り現状復帰します。②①が不可の場合はエンドをやり直します。

- (11) 介助やサポートが必要な場合は、一緒にコートに入ってサポートができます（お子さんなどへの助言も OK）。※介助以外でサポートする場合は、ボックスの後ろで行ってください。介助者やサポーターは「介助ビブス」の着用をお願いします。
- (12) 用具は主催者で用意します。ランブが必要なチームには貸出します。
- (13) 円滑な大会運営のため、持ち時間制を採用し、各チーム 2 分間とします。ただし、ランブを使用する選手がいるチーム、視覚障害のある選手がいるチームは、持ち時間を 5 分間（状況により応相談）とします。各チームともご協力をお願いします。
- (14) 試合中は、持ち時間内において、コート内に入りボールの状況を間近で確認することができます。コート内では、ボールに触れて動かしてしまわないよう注意してください。
- (15) 組み合わせは各組 3~4 チームによる総当たりの予選リーグ戦を実施し、その後、各リーグの 1 位のチームによる決勝トーナメント（又は決勝リーグ戦）を行います。
- (16) 大会当日、参加人数やメンバーに変更がある場合は、当日受付で変更届を提出してください（他の参加チームや応援者などからメンバーを補充しても OK ですが、一人の方が複数のチームに所属することはできません）。受付後は、人数やメンバーの変更は不可とします。
- なお、3 名未満の場合は、オープン参加として扱います（決勝トーナメントへの進出や、表彰の対象にはなりません）。
- (17) 各試合前に 2 分間のウォーミングアップを設けます。ウォーミングアップは、2 分間経過、または全てのボールの投球が終わった時点で終了となります。また、両チームから希望がない場合は実施しません。
- (18) 相手が全ての投球を終え、有利な局面となった場合は、「投球をしない」こともできます。この場合は審判に宣告してください（アウトボールとして扱います）。